

令和 5 年度

**事業の課題に対する
健康局の取組みについて**

大阪市における在宅医療・介護連携推進事業のめざすべき将来像

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、多職種協働により在宅医療と介護を一体的に提供できる体制が構築されている。

めざすべき将来像に向けての局の取組み

- 1. 事業の進捗管理**
- 2. 広域連携の仕組みづくり**
- 3. 区役所・相談支援室に対する積極的支援**

取組み 1 事業の進捗管理

(1) 評価指標

【これまでの取組み】〈医療側〉

平成29年度
大阪市在宅医療・介護連携推進事業に関する
医療施設等アンケート調査

〈介護側〉

令和元年度
大阪市高齢者実態調査
(本人・介護支援専門員・介護施設)

令和2年度評価指標を設定

令和3年度
大阪市在宅医療・介護連携推進事業に関する
医療施設等アンケート調査

令和4年度
大阪市高齢者実態調査
(本人・介護支援専門員・介護施設)

令和5年度取組み

- ①令和4年度実施 大阪市高齢者実態調査結果の把握 (資料3)
- ②令和5年度評価指標を再設定

(2) 区役所・相談支援室への取組み調査

【これまでの取組み】

- ・事業の取組み状況について区役所、相談支援室へ年2回調査を実施

調査内容：・各事業項目について取組んでいるか否かの実態

- ・各区においてめざすべき姿に向けて「抽出された課題」、「目標設定」、「課題解決に向けた対応策」についての具体的内容を把握
- ・4つの場面を意識した取組みの状況 等

- ・個別支援の実施



令和5年度の取組み

- ① 事業の取組み状況について、区役所・相談支援室へ年2回調査を実施
- ② 事業の取組み状況について、区役所に対し報告等を適宜行う
- ③ 取組み調査結果より、各区の具体的な取組み内容を把握し、個別支援へとつなげる
- ④ ACPの認知度向上を目指して、各区における取組み支援を行う

➡ 取組み3

取組み 2 広域連携の仕組みづくり

【これまでの取組み】

・多職種研修会の開催

目 的：○区域を越えた専門職の連携の強化

○さまざまな職種の専門職が職種を越えて交流し、その職種ならではの視点・役割・重要性を知る機会とする

テーマ：令和4年度 『地域でつなぐアドバンスケアプランニング（ACP）』

・大阪市「在宅医療・介護連携相談支援室」活動報告会の開催

目 的：切れ目のない在宅医療・介護サービスの提供体制の構築のため、相談支援室の周知を図り、広域的な医療・介護関係機関との連携推進を促進する

平成30年度

平成30年11月10日開催 11区

令和元年度

新型コロナウイルス感染症拡大のため、書面報告 13区

令和4年度

令和5年2月4日開催 ブロックごとに報告

令和5年度取組み

- ① 看取り場면을テーマとした多職種研修会の開催
- ② 11月をACPの強化月間として全区で取組みをすすめる
- ③ 大阪市「在宅医療・介護連携推進事業」活動報告会の開催

市内基本保健医療圏域ごとの多職種研修会の開催

【内 容】

開催予定

- 第1部 講演：『隣接市における看取りの取組み（仮称）』
- 第2部 グループワーク

【開催日・場所・講師】

北ブロック：北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区
日時・場所：令和5年9月19日（火） 14：00～17：00 中央区民センター
講 師：医療法人 学縁会 おおさか往診クリニック 理事長 田村 学 先生

東ブロック：中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区
日時・場所：令和5年9月29日（金） 14：00～17：00 東成区民センター
講 師：医療法人 綾正会 かわベクリニック 院長 川邊 正和 先生

西ブロック：福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区
日時・場所：令和5年9月28日（木） 14：00～17：00 港区民センター
講 師：医療法人社団 裕和会 三和クリニック 院長 豊國 剛大 先生

南ブロック：阿倍野区、住之江区、住吉区、東住吉区、平野区、西成区
日時・場所：令和5年10月5日（木） 14：00～17：00 住吉区民センター
講 師：社会医療法人 同仁会 みみはら在宅クリニック 所長 奥村 伸二 先生 5

取組み3 区役所・相談支援室に対する積極的支援

【これまでの取組み】

- ・『在宅医療・介護連携推進事業 区担当者等説明会』の開催（令和元年度より実施）
- ・区役所及び相談支援室への個別支援
 - 区役所・相談支援室へのアウトリーチ（令和2年度より実施）
 - 新任コーディネーターへの支援（令和3年度より実施）
- ・『区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会』の開催
 - 第1回「診療報酬改定から見える地域包括ケアシステムの国の動向」
 - 第2回「薬局・薬剤師との連携」

令和5年度の取組み

- （1）区役所への支援
 - ①『在宅医療・介護連携推進事業 区担当者等説明会』の実施（事業のノウハウ・担当者間の情報共有の場を提供）
 - ②区役所への個別支援・具体的アプローチに対する支援
- （2）相談支援室への支援
 - ①新任コーディネーターへの支援
 - ②コーディネーター連絡会を活用し、コーディネーター間の相互連携の支援
 - ③相談支援室への個別支援
- （3）区役所・コーディネーターのスキルアップと連携
 - 『区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会』の開催

① 在宅医療・介護連携推進事業 区担当者等説明会の開催

【日 時】

令和5年5月29日（月）（第1部）14時～15時15分

（第2部）15時30分～17時

【内 容】

（第1部）『在宅医療・介護連携推進事業の進め方について』

『区担当者間の情報共有（グループワーク）』

（第2部）『淀川区・港区のACPの取組み報告』

『区担当者とコーディネーターの情報共有（グループワーク）』

【参加者】

（第1部）区担当者43名（うち新任者30名）

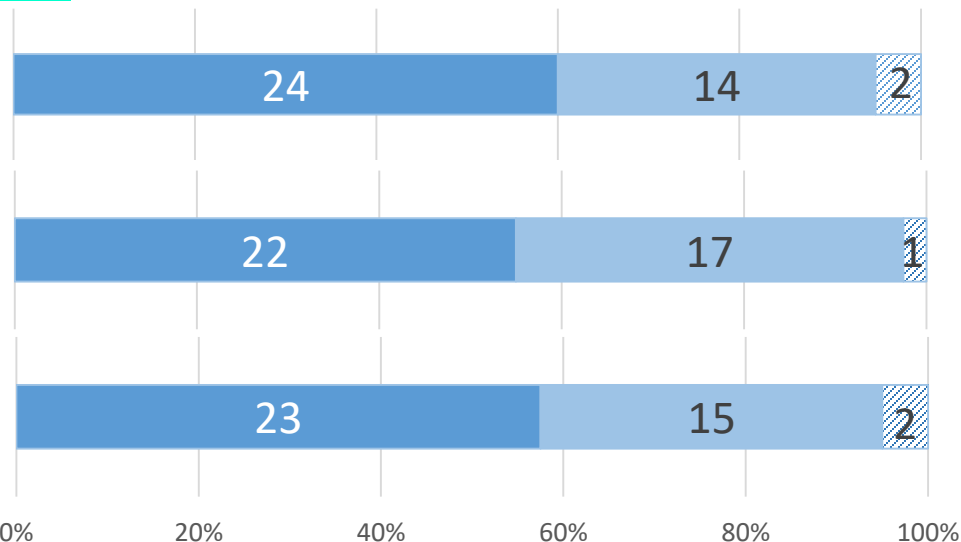
（職種内訳：事務職24名、保健師18名、その他1名）

（第2部）区担当者43名 コーディネーター28名（うち新任3名） 合計 71名

第1部アンケート結果

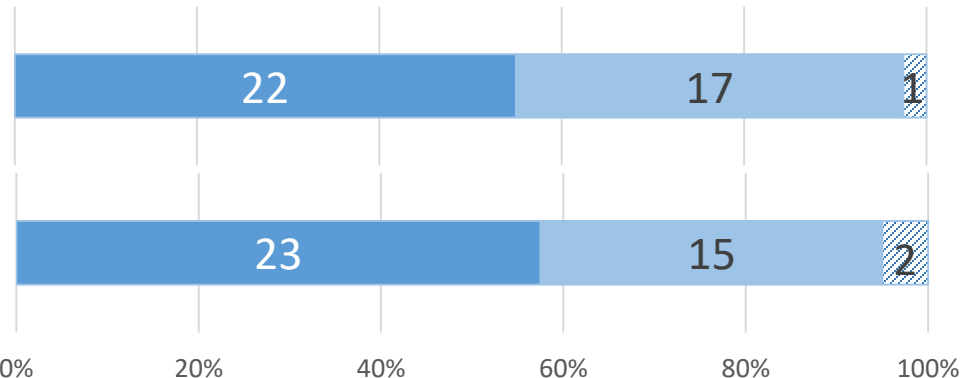
アンケート回収数40（回収率93%）

今後の業務に活用できそうですか



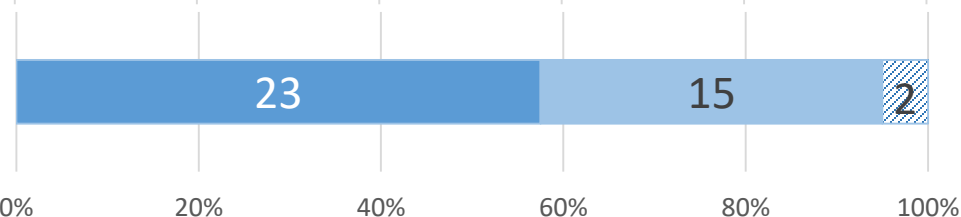
- 活かせる
- やや活かせる
- あまり活かせない
- 活かせない

事業の進め方は理解できましたか



- 理解できた
- 少し理解できた
- あまり理解できなかった
- 理解できなかった

各区の取組みや課題について共有することができましたか

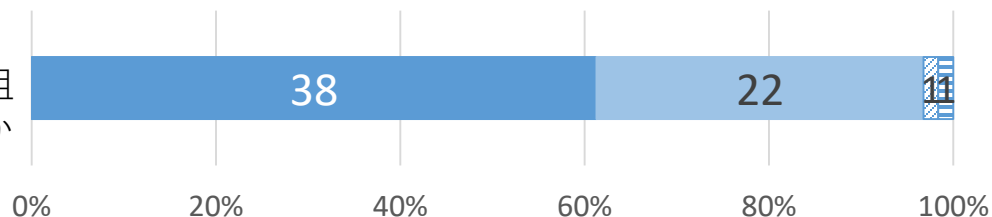


- そう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

第2部アンケート結果

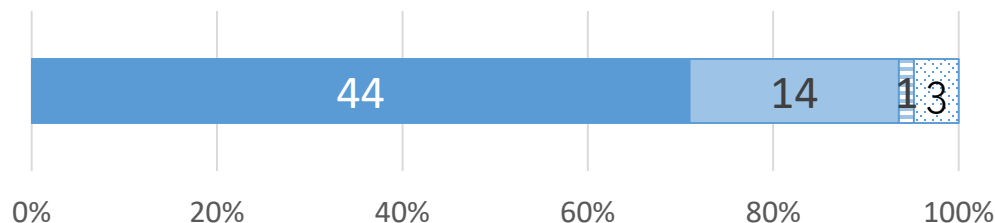
アンケート回収数62（回収率87.3%）

取組み紹介は今後の取組みに活用できそうですか



- そう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない
- その他

情報共有を通じて区担当者とコーディネーターとの関係づくりができましたか



- そう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない
- その他
- 未回答

【説明会に対する意見】

- ・他区の実践が詳しくわかり参考になった
- ・他区の医介連携の温度感や内容を知れたことが良かった
- ・2区の実例を聞いたことで、新任でしたが事業イメージが得られた
- ・紹介いただいた区のように計画性をもった展開を考えていきたい
- ・今年度から担当になった区役所の方としっかり話ができて大変良かった
- ・各区の特徴にあったACPの実践を進めていく必要性を感じた
- ・今後の活動計画について意見交換ができて良かった

【今後の研修会への要望】

- ・先進区の実践
- ・他事業との連携について
- ・ACP、もしばなカードについて
- ・各区ごとに話ができる時間があればいい
- ・グループワークを取り入れてほしい



② 相談支援室への支援

【新任コーディネーターへの支援】

＜到達目標＞

- ・在宅医療・介護連携推進事業について理解することができる
- ・区役所・受託法人・健康局と連携して事業を推進することができる
- ・医療・介護の関係機関と顔の見える関係を構築することができる
- ・医介連携の課題を抽出し、対応策を立案することができる

＜支援内容＞

- ・採用月・・・健康局より事業の概要を説明 令和5年4月24日（月）
- ・3か月まで・・・先輩コーディネーターより事業の実際について説明

令和5年6月27日（火）

参加者：新任コーディネーター 9名（1年目）

内 容：・「多職種連携を円滑にするコミュニケーションの実践」

講師：東成区医師会 在宅医療・介護連携相談支援室 黒田和子氏

・情報共有

- ・3か月以降・・・先輩コーディネーターの実践を見学
- ・9か月後頃・・・進捗確認（チェックリストを用いて実施予定）

【コーディネーターへの支援】

- ・毎月コーディネーター連絡会を開催し、トピックスの提供やコーディネーター間の情報共有を実施

③ 区役所及び相談支援室への研修会の開催

区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会

【日 時】 令和5年6月29日（木）14時～17時

【内 容】 『絆を深め、情報共有できる最先端の会議スキル

～在宅医療・介護連携の推進を目指して～』

講師：一般社団法人 会議ファシリテーター普及協会 代表 釘山 健一氏

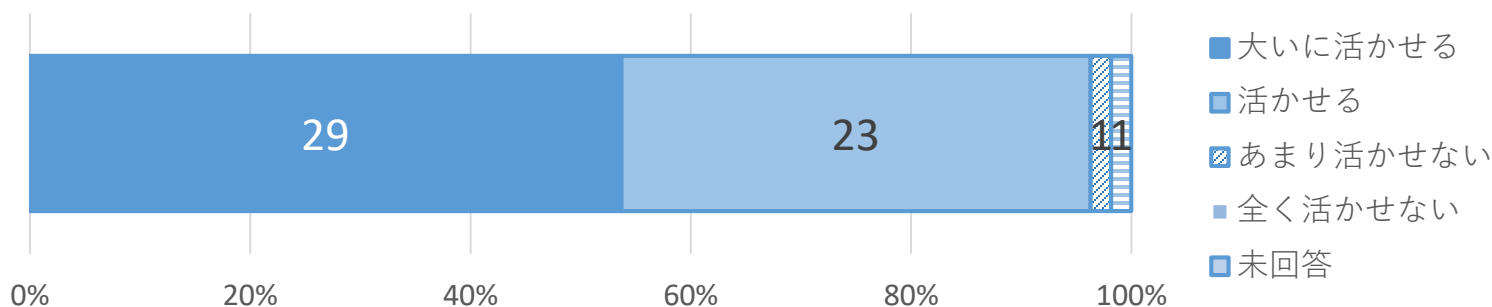
【場 所】 福島区民センター

【参 加 者】 区役所職員 32名 コーディネーター 27名 合計59名

アンケート結果

【回収数】 54名（回収率91.5%）

【今後の事業に活用できるか】



【研修会の内容について】

- ・日本型ファシリテーターの方法を初めて学んだ。会議の出席者の全員の思いを出していただく大切がわかった
- ・会議と対話の場の違いがわかった。使い分けしていきたい。対話の手法が学べた
- ・口で話す会議から紙に書きだす会議へ、変更できる部分から取り組んでいきたい
- ・机の配置や資料の配り方など少しの工夫で前向きな会議ができるというポイントを参考にしていきたい
- ・会議の雰囲気づくり等行っていきたい
- ・実践に役立つ4つの極意を学び、いろんな会議（対話）の場面で活用できると思った
- ・職場の小さな会議からでも4つのポイントを意識してやっていきたい
- ・声を上げにくい層より思いや考えを引き出せるテクニックを学ぶことができた
- ・意見ではなく思いを引き出すというのが非常に新鮮な視点であった
- ・今後の推進会議等で活用できそう。在宅医療・介護連携推進事業だけでなく、業務でも活用できそうな内容だった
- ・会議の形式を変え、これまでの沈黙の時間がある会議から思いを引き出せそうだと感じた。出席者が仲良くなれるよう考えながらすすめていきたい
- ・意見を出し合うのではなく、意見を出すのが苦手な人でも発言できるよう紙に書きだすことは貴重な方法であると感じた。
- ・多職種研修会を開催する際に活かせると感じた

- ・会議に参加してもらった全員の思いを引き出すことで、これまでの会議と違うものができればと思う
- ・会議での発言が少なかったり、発表する人がいつも決まっていたりしていた。研修内容を試してみたい
- ・書かせる会議に挑戦しようと思う
- ・今年度から区のワーキング会議を口の字型からグループ形式に変更し、個々がしゃべりやすくなっている。今回の研修を実践できているようである。
- ・対話型に変えていくことで良いアイデアが5倍も10倍も出るなら変えるしかないと考える
- ・グループワークで色々話せる雰囲気良かった

【今後の研修会への要望】

- ・今回の続きを聞きたい
- ・ACP（人生会議）について
- ・もしばなカード
- ・課題検討の研修会
- ・2024年の医療・介護報酬同時改定に関する研修



④ 区役所及び相談支援室への個別支援

区役所

取組み調査等より現状と課題を把握し、必要な区へ個別支援実施

【期 間】 令和5年5月～

【内 容】 現状・課題の把握・連携方法について



令和4年度の取組み調査や新任コーディネーターの区など、支援対象区を抽出し、5月より個別支援を開始し、現在までに6区実施

<支援内容>

- ・区の取り組み状況や困りごと、コーディネーターとの連携状況を聞き取り
- ・相談支援室訪問で聞いた課題やコーディネーターの思いを伝え、連携を促す

相談支援室

24区相談支援室へ訪問（全区訪問済）

【期 間】 令和5年4月～6月

【内 容】 現状・課題・困っていることの把握、今年度の取組みについて



訪問結果まとめ

【令和4年度の取組み内容】

- ・新型コロナウイルス感染症で中止していた在宅医療・介護連携推進会議が開催された
- ・連携ツールや情報共有ツールの検討や作成
- ・医療機関マップの更新
- ・ACPのリーフレットやノート、キャンペーン、イベントの実施

【課題・困っていること】

- ・区との連携
- ・多職種連携が進んでいない
- ・かかりつけ医の理解が進んでいない。入院したケースがかかりつけ医に戻らない
- ・複合問題を抱える案件が増えている（認知症・精神疾患・虐待など）
- ・ACPが浸透していない

【令和5年度に取り組みたいこと】

- ・お薬手帳にACPの内容を盛り込みたい
- ・薬局、薬剤師との連携
- ・ACPの啓発
- ・連携ツールの活用・周知